

どんぐり

No.71

主な内容

- 巻頭言「^{タデ}蓼食う人も様々」
- 自然学校の充実に向けて
- 自然学校実施報告書のまとめより
- 調査・研究委員会から
- 自然学校における健康管理について



服部校長先生との自然散策 (明石市立高丘東小学校)

兵庫県立
南但馬自然学校

HYOGO KENRITSU MINAMI TAJIMA SHIZEN GAKKO

Nature Education Center

蓼^{タデ}食う人も様々

兵庫県立南但馬自然学校

副校長 村上 裕樹



「副校長先生、これ食べてみてください」と服部校長が差し出されたのは、どう見ても草でした。恐る恐る口にしましたが、予想外の辛さに表情がゆがみました。何を食べたのかいぶかる私を尻目に、校長はこう切り出されたのです。

『蓼食う虫も好き好き』という諺はご存じですね。実はこれが蓼(タデ)の葉なのです。人の好みは様々であるという諺の意味は知っているけど、実際にタデを食べた経験のある人は少ないでしょう。しかし、これを食べてみると、



こんな辛い葉を食べる虫もいるのだと、実感を伴って諺の意味が理解できると思うのです」

「これが、まさに体験に学ぶということではないでしょうか。自分の五感で獲得したことが知識と一体化する。こうして、子ども達は生きる力を身に付けていくのです」

「会席料理のお刺身に、ワサビと赤色の丸い葉が添えられています。実はあれがアカタデの双葉です。今度お刺身が出たら、じっくり味わってください」悪戯っぽい目つきで、しかし真面目に語られる校長の話を私は感心しながら伺いました。そして、こんな風に自然と向き合うことができたらいいな、自然について知識やスキルを身に付けて子ども達に伝えられたら素敵だなと強く思いました。

それから後、自然学校で利用した子ども達、初任者研修等で来られた先生方が、次々にタデの被害者になっていきました。私は



ちよっと遠慮しなすという面持ちで手を出さない人、こちらの期待通りのリアクションをする人、中にはすぐに吐き出してしま

う人もいました。その反応は様々でしたが、タデの味と諺の意味は、みなさん一生忘れないだろうと思います。そして、次に刺身と遭遇したら、アカタデの味を確かめてみるに違いありません。

タデと出会って以来、私は実に様々な自然体験をしてきました。

ケヤキの葉で卵のベッドをしつらえるオトシブミに感じる親

の愛、初めて見るキンラン・ギンランは楚々とした佇まいでした。木々の葉を覆い尽くす数百のモリアオガエルの卵塊には目を奪われましたし、ひよっこり現れたアナグマは、私のことなど目もくれず、えさ探しに夢中でした。

耳をふさぎなくなるほどの蝉の大合唱、雲かと見まがうほどの天の川とたくさん星の星座達、雲海に浮かぶ天空の城「竹田城跡」など、四季折々の自然の素晴らしさにすっかり魅了されています。

私は、こうした自分自身の体験を自然学校の開校式における歓迎挨拶に盛り込むようにしてきました。「今朝、その林でキジに出会ったよ」と言う、子ども達はぐっと身を乗り出してきます。子どもの好奇心に火をつけることができた、これほど嬉しいことはありません。

子ども達が自然体験の素晴らしさを思い切り味わう、そんな自然学校を今後も推進していきたいと考えています。

自然学校の充実に向けて

「南但馬自然学校将来ビジョン」を受けて」

兵庫県立南但馬自然学校

主任指導主事兼指導課長 御栗 康嗣

兵庫県下の公立小学校5年生で実施する「自然学校推進事業」は、兵庫型「体験教育」の先駆けとなった事業で、今年度で30年目の節目を迎えました。本校では、開校20年を機に、「南但馬自然学校将来構想検討委員会」を設置し、2年間をかけて「南但馬自然学校将来ビジョン」をまとめました。このビジョンは、「自然・文化財産の調査」「自然学校プログラムの在り方とさらなる充実」「人材育成と研修の在り方」「安全・安心な南但馬自然学校」の4つの柱についてまとめています。詳しい内容については、本校ホームページ（<http://www.shizengakko.jp>）にアップしておりますのでご覧ください。

現在本校では、このビジョンに基づいて自然体験プログラムの開発に力を注いでいます。服部校長を中心に敷地内の植生調査を行い、植物目録や分布図等を作

成しました。また、調査を踏まえ、「どんぐりコレクション」や「もみじがり」という活動を自然学校プログラムに加えてもらえるように資料等を整えているところです。「どんぐりコレクション」は、本校内に生育しているブナ科の樹木13種（イヌブナ、クリ、コナラ等）のどんぐりを集める活動です。「もみじがり」は、本校内に生育しているムクロジ科カエデ属の樹木10種（イロハモミジ、ヤマモミジ、オオモミジ等）の葉を集める活動です。どちらの活動も収集後に形や大きさなどを比較したり、集めたものを利用してクラフトやしおりづくりなど次の活動に繋げたりすることができ

ます。

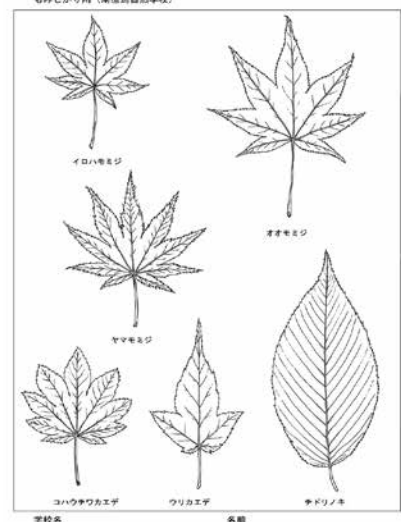
これらの活動を作成するきっかけは、本校が行った「自然にふれる活動アンケート」調査でした。「自然そのものにふれる

活動を積極的にプログラムに取り入れるため、専門的な知識や経験がなくても指導ができるマニュアルや、魅力ある活動を紹介してほしい」という学校現場からの声に応えるためです。

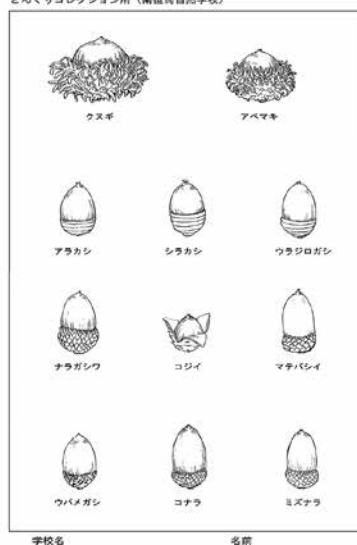
今年度は、数校の利用校に試作版で活動してもらいました。「どんぐりには思っ

ていたよりたくさん種類があったで見分けるのが難しかったです。この時期にしかできないことが出てうれしかったです。自分の身の回りにはどんなどんぐりがあるのか調べてみたいと思いました」「班の人たちと協力してマップを見ながら3種類のもみじを見つけることができました。もみじにも色々な種類があることが

もみじ台帳
もみじがり用（南但馬自然学校）



どんぐり台帳
どんぐりコレクション用（南但馬自然学校）



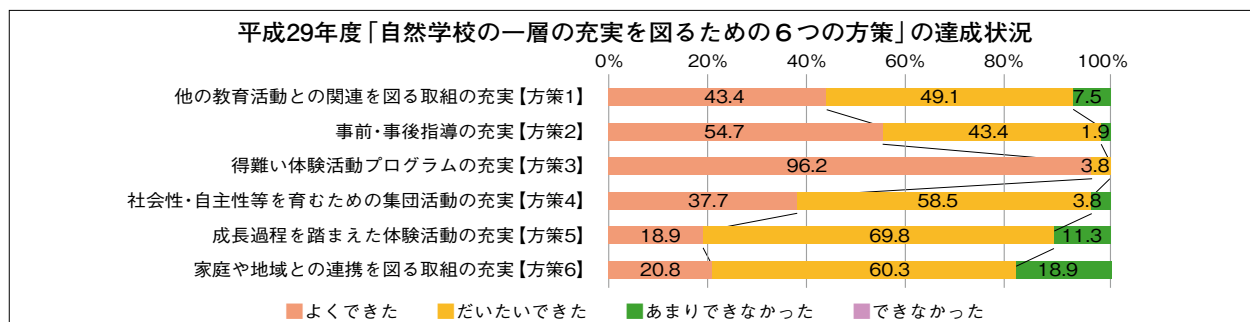
分かったし、友達と協力してできたので良かったです。家の近くでも、色々な種類を見つけてみたいと思いました」等という、活動後の児童の感想が得られました。児童が興味を持って自然と触れ合いながら、植物の多様性に気づき、自分の住んでいる地域と比較し、自然に親しむきっかけとなりました。今後は、修正を加えながらより質の良い活動にしていきます。

自然学校がはじまり30年の節目に、自然学校の基本理念となった昭和62年「こころ豊かな人づくり懇話会」の提言に立ち返り、自然とのふれあいを通して、「生きる力」を育むことにせまる活動の開発に努めていきたいと考えています。

平成29年度の自然学校実施報告書のまとめから

「自然学校の一層の充実を図るための『6つの方策』」について

本年度、53グループ（74校）の利用校から提出のあった自然学校実施報告書より、平成20年3月に自然学校評価検証委員会から提言された「自然学校の一層の充実を図るための『6つの方策』」の達成状況は、以下のとおりとなりました。



「よくできた」「だいたいできた」の合計をみると、方策1から4については、90%を超え、方策5、6については80%を超えており、概ね達成したという結果となっています。各利用校が、自然学校を学校では得難い体験を行う教育活動の好機と捉え、自然学校推進事業の趣旨を踏まえながら、各教科等で事前や事後学習を工夫し、児童の社会性や自主性等を育もうと取り組んでいることがうかがえます。

他の教育活動との関連を図る取組の充実について

以下の表は各教科等において、他の教育活動との関連を図った事前・事後指導の実施状況です。

	事 前								事 後				
教科等	国語	理科	図画工作	家庭	体育	道徳	総合的な 学習の時間	特別活動	国語	音楽	図画工作	総合的な 学習の時間	特別活動
実施率（％）	7.5	3.8	13.2	35.8	13.2	7.5	90.6	58.5	32.1	1.9	9.4	88.7	11.3

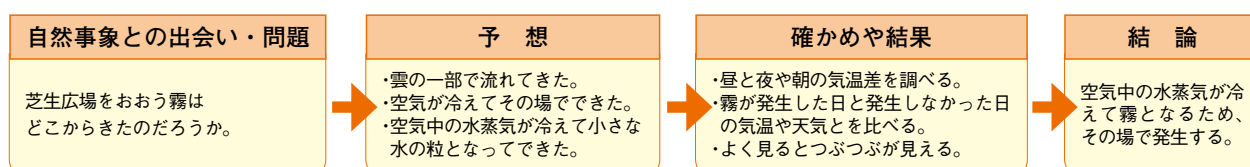
※実施率＝他の教育活動との関連を図った取組を実施したグループ数÷53×100

約90%の利用校が総合的な学習の時間に、事前学習として自然学校に向けた調査活動等を実施しており、事後学習として自然学校を振り返る表現活動等を実施しています。他の教科等においても、国語では「森林のおくりもの」の学習を通して森林の役割について考えたり、理科では自然学校中の天気を調べ、天気の変化のきまりについて考えたりと、多くの利用校において、自然学校を体験だけでは終わらせない取組が見られました。

改訂学習指導要領では、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のために教科等横断的な学習を充実する等のカリキュラム・マネジメントの確立が求められています。自然学校についても、各教科等で学んだ知識や技能等を自然学校にいかしたり、自然学校を通して身に付けた探求的・実践的な態度や感性等を各教科等にいかしたりして、自然学校と他の教育活動とを体系的、系統的に『つなぐ』ことで、より教育効果が高まると考えます。

自然学校中にできる他の教育活動との関連を図った活動例

秋になると早朝に雲海がよく発生し、竹田城跡を見渡せる南但馬自然学校では、霧に覆われることが多くあります。朝の集い等では、子ども達は霧に包まれながら活動しています。この霧に着目し、4年生の理科で学習した「水は、温度によって水蒸気や氷に変わることを」に関連させ、体感することで、理科学習と身の回りの自然現象とをつなぐことができます。



(文責 井上 貴至)

平成29年度南但馬自然学校調査・研究委員会から

本校では、平成29・30年度の2年間にわたり、「自然学校体験が参加児童に与えた影響について～児童及び保護者のふりかえりからの検討～」及び「自然環境を効果的に活用した体験活動について～児童が主体的に自然とふれあう活動の推進に向けて～」をテーマに研究を進めています。

1 「自然学校体験が参加児童に与えた影響について～児童及び保護者のふりかえりからの検討～」

(1) 目的

児童及び保護者アンケートを通して、これまでの自然学校の成果と課題を分析し、平成16年度調査等と比較しながら、今後の取組の指針を探る。また、保護者の自然体験の有無が保護者自身や子どもに与えた影響について検証する。

(2) 平成29年度の研究の流れ

アンケートの実施（プレ調査）

＜対象＞本校の利用校（9月～10月）の児童451名及び保護者414名（8校を抽出）

＜内容＞児 童：自然学校の前後の気持ちはどうだったか。感動したことがあったか。等
保護者：自然学校での経験が役立っているか。自然学校をきっかけに子どもが変わったか。等

＜結果＞児 童

・約43%の児童が自然学校前に不安を感じていたが、自然学校後は約88%が楽しかったと感じていた。また、約70%の児童が自然学校で感動したと回答した。

保護者

・約51%の保護者が自然学校を経験しており、そのうち約60%が「子どもと一緒に体験を共有できる」等、自然学校での経験が今の生活に役立っていると回答した。

(3) 今後の方向性

本調査を実施し、その結果を分析し考察する。

2 「自然環境を効果的に活用した体験活動について～児童が主体的に自然とふれあう活動の推進に向けて～」

(1) 目的

利用校における自然そのものにふれる活動の実施状況等について現状と課題を分析し、自然環境を効果的に活用した活動が積極的に取り入れられるよう推進方策を探る。

(2) 平成29年度の研究の流れ

アンケート調査の実施と調査結果の分析

＜対象＞本校の利用校（9月～12月）の教員29名

＜内容＞自然にふれる活動を行ったか。自然にふれる活動を推進するには何が必要か。等

＜結果＞・多くの学校で、自然にふれる活動は行われているものの、活動内容が偏っている。
・教員は自然にふれる活動に興味を持ち、プログラムに取り入れたいと考えている。
・自然にふれる活動が積極的に行われるには、教員用の指導マニュアルがあること、各教科等の学習につながる魅力ある活動があることが必要だと考えている。

(3) 今後の方向性

自然環境を効果的に活用した活動の推進方策の検討

①アンケートの結果、最も希望が多かった植物に関する活動を開発し、モデル実施する。

【モデル実施する活動】「どんぐりコレクション」「もみじがり」

＜ねらい＞形、大きさ、色等多様などんぐりやもみじの収集を通して、児童が楽しみながら自然とふれあい、植物の多様性に気付く。

②本校の自然環境を活用した活動について、理科等との関連をまとめる。

（文責 安東 博之 井上 貴至）

2 健康で安全な自然学校の実施に向けて

今年度、本校が実施した「自然学校アンケート」調査では、多くの児童が「家族と離れること」「1人でやっていけるか」「友達とうまくいくか」等、精神的な不安を感じていることがわかりました。また、「病気になるか」「けがをしないか」「アレルギーがでないか」等、身体的な不安を感じている児童が少なからずいたこともわかりました。このような児童の不安を少しでも取り除き、けがや病気を予防するためには、健康・安全に係る事前準備や事前指導を適切に行う必要があります。そこで、この1年間の自然学校の様子から、注意してほしいポイントをいくつか挙げてみました。

(1) 救急体制の確認

事故等が発生した場合、早急に対応できるよう、活動場所や宿泊先に近い医療機関、AEDの場所等を確認しておくことが大切です。また、配慮の必要な児童に対しては、個別に救急体制を確認しておくことも必要です。まれに、持病によりかかりつけ医でないと対応できない等の事情のある場合があります。どこの医療機関にどのように搬送するのかを保護者、医療機関ともしっかりと確認しておくことが大切です。

また、エピペンや持参の薬がある場合、使用方法や保管場所についても確認することが大切です。

(2) 事前指導の在り方

実施時期、活動の内容から考えられる危険を予測し、事前指導を行いましょう。また、児童の健康状態に合わせて活動方法を検討することも必要です。例えば、喘息のある児童は、「野外炊事」や「キャンプファイヤー」等、煙のでる活動に注意が必要です。煙を吸うことで喘息が誘発されることがあるため、活動の前には、マスクを着用させ、活動場所が風下にならないよう注意します。場合によっては少し離れたところで活動させる等の配慮や指導も必要になってきます。

また、野外活動においては、害虫に対する対策も不可欠です。近年マダニの問題もあり、野外活動では夏場でも長袖、長ズボンの着用が望まれます。活動場所や内容に合わせた服装や持ち物を準備することが大切です。

(3) 健康管理について

自然学校中に、受診を必要とする児童の中には、自然学校実施前から体調を崩している児童がいます。自然学校は、月曜日から始まることが多いため、前日の日曜日にけがをしたり体調を崩したりしても、医療機関を受診することが難しいからです。しかし、体調を崩したまま参加しても満足 of いく活動はできません。自然学校に向けて体調管理したり、事前に受診を済ませたりすることで安心して参加することができます。

(4) 教職員・帯同救急員・指導補助員との共通理解

健康で安全な自然学校を実施するためには、指導に関わる教職員、帯同救急員、指導補助員が、「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どのように」等、互いの役割を確認し、共通理解を図ることが大切です。三者が連携することにより、児童の体調や心の変化を早期に発見し、けがや病気を予防することができるからです。そのためには、事前の打合せ会を必ず行うとともに、実施期間中はスケジュールに明記するなど打合せの時間を意識して確保することが大切です。

自然学校における健康管理について (平成29年度のデータに基づいて)

1 傷病記録より

(1) 傷病発生状況及び医療機関受診状況 (表1参照)

今年度の傷病発生率は、平成28年度と比較して、内科、外科ともに減少しています。また、過去23年間の平均発生率と比べても、傷病発生率は、低い結果となっています。医療機関への受診については、内科での受診率は大きく減少し、外科は、少し増加しています。過去23年間の平均発生率と比べると、内科、外科ともに低い結果となっています。

表1 傷病発生状況及び医療機関受診状況

	傷病			受診		
	内科	外科	合計	内科	外科	合計
H29年度傷病発生件数(件)	69	54	123	17	14	31
H29年度傷病発生率(%)	0.35	0.28	0.63	0.09	0.07	0.16
H28年度傷病発生率(%)	0.47	0.34	0.81	0.18	0.06	0.24
23年間の平均傷病発生率(%)	0.85	0.78	1.63	0.13	0.1	0.23

*発生率は、件数を利用児童延べ人数19,620人で割り算した。

(2) 傷病発生状況の内訳 (図1、2参照)

内科の内訳は、「発熱・感冒」36.3%が最も多く、その次は、「頭痛」11.6%になっています。外科の内訳は、「打撲」「切創・挫創・刺創」20.3%が最も多く、次いで「虫さされ」「頭のケガ」14.8%になっています。

図1 内科の内訳

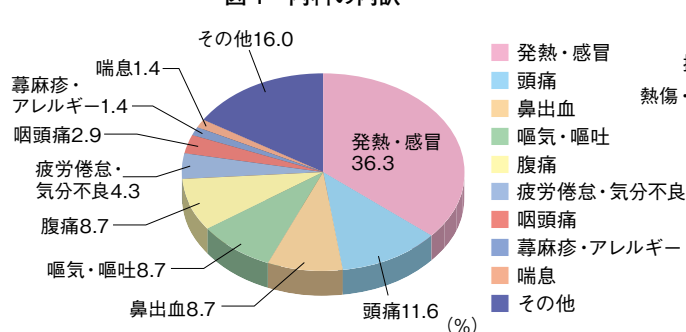
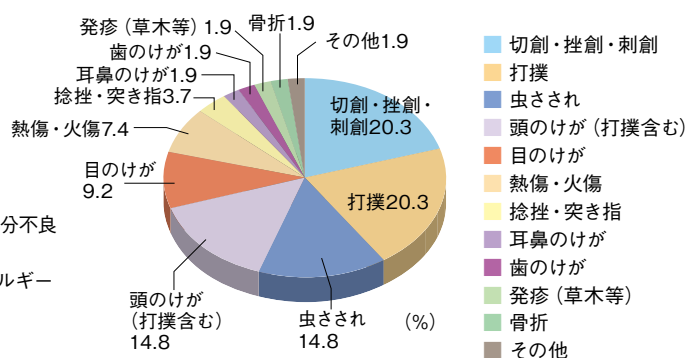


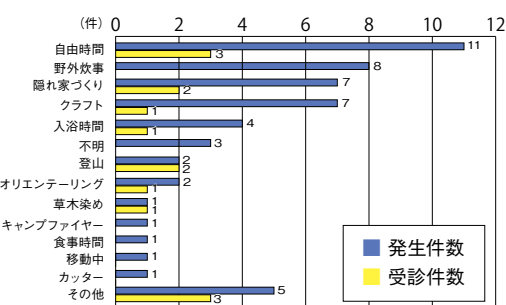
図2 外科の内訳



(3) 活動別けがの発生件数・受診件数 (図3参照)

活動別けがの発生件数では、「自由時間」が一番多く、次に「野外炊事」、「クラフト」と「隠れ家づくり」の順で多く発生しています。受診件数でも、「自由時間」が多く、次いで、「隠れ家づくり」「登山」の順になっています。このことから、「自由時間」の過ごし方に注意が必要です。「自由時間」は、指導者の目が行き届きにくくなるため、事前指導を徹底し、指導者の配置等を工夫する必要があります。

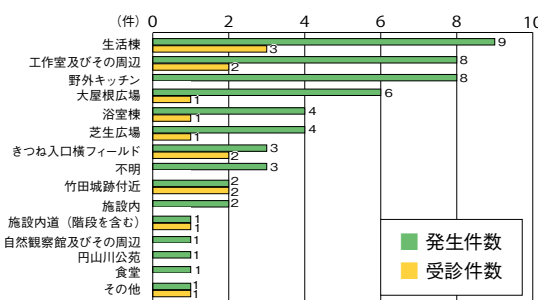
図3 活動別けがの発生件数・受診件数



(4) 場所別けがの発生件数・受診件数 (図4参照)

場所別けがの発生件数では、「生活棟」が一番多く、次に「野外キッチン」「工作室及びその周辺」の順で多く発生しています。受診件数でも「生活棟」が多くなっています。特に、生活棟で起こった9件のけがのうち6件は、頭や顔など、首より上で起こっています。顔面(首を含む)には大切な器官がたくさんあり、大きなけがにつながります。日常の学校生活から児童自身がけが予防について考えたり、意識を高めたりする指導が大切です。

図4 場所別けがの発生件数・受診件数



平成30年度 講座・研修会のご案内

自然学校指導者スキルアップ研修

期 日：平成30年 8月10日(金)
 対 象：県下の公立小学校教員（初任者研修及び中堅教諭等資質向上研修としても受講可）
 募集定員：20人程度
 内 容：アクティビティ指導の基礎基本 実習「竹の伐採と竹を使ったクラフトづくり」
 「竹飯ごうによるご飯炊き」
 プログラムデザインの基礎基本 実習・演習「自然学校プログラムデザイン」

自然学校出前講座

実施期日：平成30年 4月～平成31年 3月（実施日は各学校の要請をもとに調整します）
 内 容：○プログラムデザインに関すること
 ○自然学校に関すること
 ・自然学校の趣旨説明・事前学習・保護者説明会（原則、本校を初めて利用する学校のみとします）
 ※出前授業として、兵庫県立南但馬自然学校で展開されるアクティビティの一部も行うことができます。
 （ロープワーク実習、1人用テント設営、野外炊事実習、火おこし体験等）
 申込方法：実施1ヶ月前までに「自然学校出前講座申請書」で申し込んでください。（事前に本校との調整をお願いします）

自然学校講座（指導者入門）

期 日：平成30年 8月21日(火)～23日(木)※1日又は講座単位の受講も可
 対 象：大学生、一般県民、県下の公立学校教員（高等学校初任者研修及び高等学校中堅教諭等資質向上研修として受講可）、その他自然学校に関心のある者
 募集定員：30人
 内 容：ロープワークを生かした遊具づくり体験、自然のお話と自然散策、野外炊事指導の基礎基本、指導補助員の心得、自然学校・野外活動におけるリスクマネジメント、キャンプファイヤーの基礎基本
 参 加 費：7,000円程度（宿泊料、食事代、リネン料、保険料、活動材料費）



プレ自然学校・アフター自然学校

期 日：日帰り又は1泊2日
 (1)自然学校受入期間中 金曜日・土曜日受け入れ可（金曜日から土曜日にかけての1泊2日も可）
 (2)自然学校受入期間以外 全日（日曜日～土曜日）受け入れ可（日曜日以外の休校日を除く）
 対 象：県下の公立小・中学校
 内 容：自然散策、朝来山登山、自然体感ゲーム、自然物クラフト、野外炊事、隠れ家づくり、星空観察、テント泊等
 経 費：食事代（弁当持参可）、施設使用料、活動材料費が必要です。

親子で自然学校～豊かな自然の中で親子のふれあいを深めましょう～

期 日：第1回平成30年 4月28日(土)～4月29日(日) 第4回平成31年 2月2日(土)～2月3日(日)
 第2回平成30年 8月25日(土)～8月26日(日) 第5回平成31年 3月16日(土)～3月17日(日)
 第3回平成30年12月15日(土)～12月16日(日)
 参 加 費：3,000円程度（宿泊料、食事代、リネン料、保険料、活動材料費）
 対 象：原則として県内の小学生とその保護者
 ※原則1泊2日ですが、日帰り希望も受け付けます。
 募集定員：10組（40人程度）
 内 容：野外炊事（ジビエカレー）、草木染め、キャンプファイヤー、しめ縄づくり、ダッチオーブンでつくる丸ごと料理、竹田城跡登山等
 申 込 み：事前に参加申込が必要です。各回とも定員になり次第、募集を締め切ります。



遊友体験活動 ～南但馬自然学校の自然を五感で感じよう～

期 日：第1回 平成30年 4月28日(土)「新緑の里山を楽しもう！～森の山菜さがし～」
 第2回 平成30年 7月7日(土)「初夏の里山を楽しもう！～水辺の生き物さがし～」
 第3回 平成30年10月20日(土)「紅葉の里山を楽しもう！～さつまいも掘りと焼きいも、どんぐりみつけ～」
 参 加 費：各回50円（保険料）
 対 象：一般県民（小学生以下は保護者同伴でご参加ください）
 募集定員：第1・2回：30人程度、第3回：60人程度
 申 込 み：事前に参加申込が必要です。各回実施日の5日前までに申し込んでください。

※詳しくは、兵庫県立南但馬自然学校指導課までお問い合わせください。